

2020年12月期 第3四半期 決算説明資料

2020年11月9日
サイバーコム株式会社
東証一部 <3852>

1. 決算概要	P 3
2. 営業利益増減分析	P 4
3. セグメント別業績	P 5
4. 貸借対照表	P 6
5. 参考情報		
(1) セグメント別売上高	P 7
(2) 顧客別売上構成比	P 8
(3) 業績予想	P 9
(4) 配当予想	P 10
(5) 会社概要	P 11

1. 決算概要

2020年12月期 第3四半期実績（前期比較）

（単位：百万円）

	前年同期 (19/01-19/09)	当期 第3四半期 (20/01-20/09)	増減／増減比	
売上高	10,462	10,153	▲308	▲3.0%
営業利益	717	677	▲40	▲5.6%
営業利益率	6.9%	6.7%	—	—
経常利益	721	690	▲31	▲4.3%
経常利益率	6.9%	6.8%	—	—
四半期純利益	491	445	▲46	▲9.4%
四半期純利益率	4.7%	4.4%	—	—
1株当たり 四半期純利益	61.25円	55.49円	▲5.76円	—
ROE (自己資本当期純利益率)	10.2%	8.5%	—	—

◇売上高は、サービス事業が好調に推移しましたがソフトウェア開発事業の減少により101億53百万円（前年同期比3.0%減）と**減収**になりました。

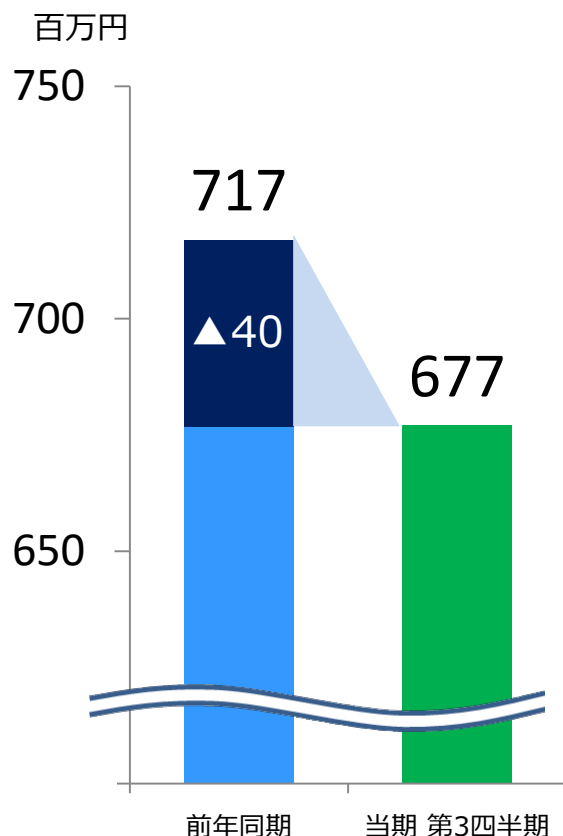
◇営業利益は、原価低減や各種イベント開催の見送り等による経費の減少があったものの、減収の影響により6億77百万円（前年同期比5.6%減）と**減益**になりました。

◇四半期純利益は、4億45百万円（前年同期比9.4%減）と**減益**になりました。

なお、新型コロナウイルス感染症対策費用として40百万円を特別損失に計上しております。

2. 営業利益増減分析

2020年12月期 第3四半期実績



増益要因 (+141)

(単位：百万円)

- ・ 交通費や通勤費の減少による増益 (+36)
- ・ 前年の自社ビル外壁補修費用がないことによる増益 (+30)
- ・ オフィス環境整備費用の減少による増益 (+30)
- ・ 各種イベント開催の見送りによる増益 (+21)
- ・ その他諸費用の減少による増益 (+24)

減益要因 (▲181)

(単位：百万円)

- ・ 新入社員研修費用の増加による減益 (▲99)
[新入社員数の増加、外部委託費用の増加等]
- ・ 売上高の減少による減益 (▲57)
- ・ 東京オフィス開設費用及び
我孫子オフィス移転費用の発生による減益 (▲25)

◇営業利益の増加要因

新入社員研修費用の増加、ソフトウェア開発事業における開発案件の時期延伸や作業規模縮小による売上高の減少、東京オフィス開設関連費用の発生等により、前年同期に比べ減益となりました。

3. セグメント別業績

2020年12月期 第3四半期セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				セグメント利益または損失			
	実績	構成比	前同差	前同比	実績	利益率	前同差	前同比
ソフトウェア開発事業	7,952	78.3%	▲521	▲6.1%	1,197	15.1%	▲125	▲9.5%
通信ソフトウェア開発	1,580	15.6%	231	+17.2%	242	15.3%	70	+41.0%
制御ソフトウェア開発	2,109	20.8%	▲412	▲16.3%	313	14.9%	▲16	▲5.1%
業務ソフトウェア開発	4,262	42.0%	▲340	▲7.4%	641	15.0%	▲178	▲21.8%
サービス事業	2,161	21.3%	213	+11.0%	327	15.2%	68	+26.5%
ファシリティ事業	39	0.4%	▲1	▲2.8%	12	32.4%	5	+86.9%
本社調整 (※)	—	—	—	—	▲861	—	—	—
合計	10,153	100.0%	▲308	▲3.0%	677	6.7%	▲40	▲5.6%

※「セグメント利益または損失」の本社調整は、各セグメントに帰属しない全社費用であり、主に販売費及び一般管理費であります。

- ◇通信ソフトウェア開発は、通信基盤の開発案件が増加し、売上高は前年同期比17.2%増、セグメント利益は前年同期比41.0%増と増収・増益になりました。
- ◇制御ソフトウェア開発は、全般的に開発案件が減少し、売上高は前年同期比16.3%減、セグメント利益は前年同期比5.1%減と減収・減益になりました。
- ◇業務ソフトウェア開発は、前年から続いた金融系の大型案件終了の影響等により、売上高は前年同期比7.4%減、セグメント利益は前年同期比21.8%減と減収・減益になりました。
- ◇サービス事業は、SIサービスにおいて社会インフラ及び金融系を中心とした仮想化やクラウドへの移行案件、ネットワーク構築案件、第5世代移動通信（5G）の基地局検証案件等が好調に推移しました。

4. 貸借対照表

貸借対照表のポイント（前期末比較）

（単位：百万円）

	前期末 2019/12	第3四半期末 2020/09	前期末差
流動資産	5,611	5,591	▲20
現金及び預金	829	919	89
受取手形及び売掛金	3,339	2,850	▲488 ①
商品	0	20	19
仕掛品	49	62	12
短期貸付金	1,297	1,595	298 ②
その他	95	143	48
固定資産	3,566	3,358	▲208
有形固定資産	2,544	2,507	▲36
無形固定資産	56	46	▲10
その他	965	803	▲161 ③
資産合計	9,178	8,949	▲228
流動負債	2,198	1,494	▲704
買掛金	488	463	▲25
未払費用	432	264	▲168 ④
未払法人税等	145	0	▲145 ⑤
賞与引当金	636	284	▲352
役員賞与引当金	32	20	▲12
その他	462	462	▲0
固定負債	1,908	2,074	166
退職給付引当金	1,876	2,043	167
役員退職慰労引当金	31	31	▲0
負債合計	4,106	3,569	▲537
純資産合計	5,071	5,380	308
負債純資産合計	9,178	8,949	▲228

主な増減要因

- ① 債権回収が進み残高減少
- ② CMS貸付金の増加
- ③ 繰延税金資産の減少
- ④ 未払費用支払による減少
- ⑤ 2019年度法人税等確定納付による減少

※ CMSとはキャッシュ・マネジメント・システムの略称であり、当社では富士ソフト株式会社に余剰資金の貸付を行っております。

◇ご参考

	2019年12月末	2020年9月末
1株当たり純資産	632.31円	670.81円
自己資本比率	55.3%	60.1%

5. 参考情報 (1) セグメント別売上高

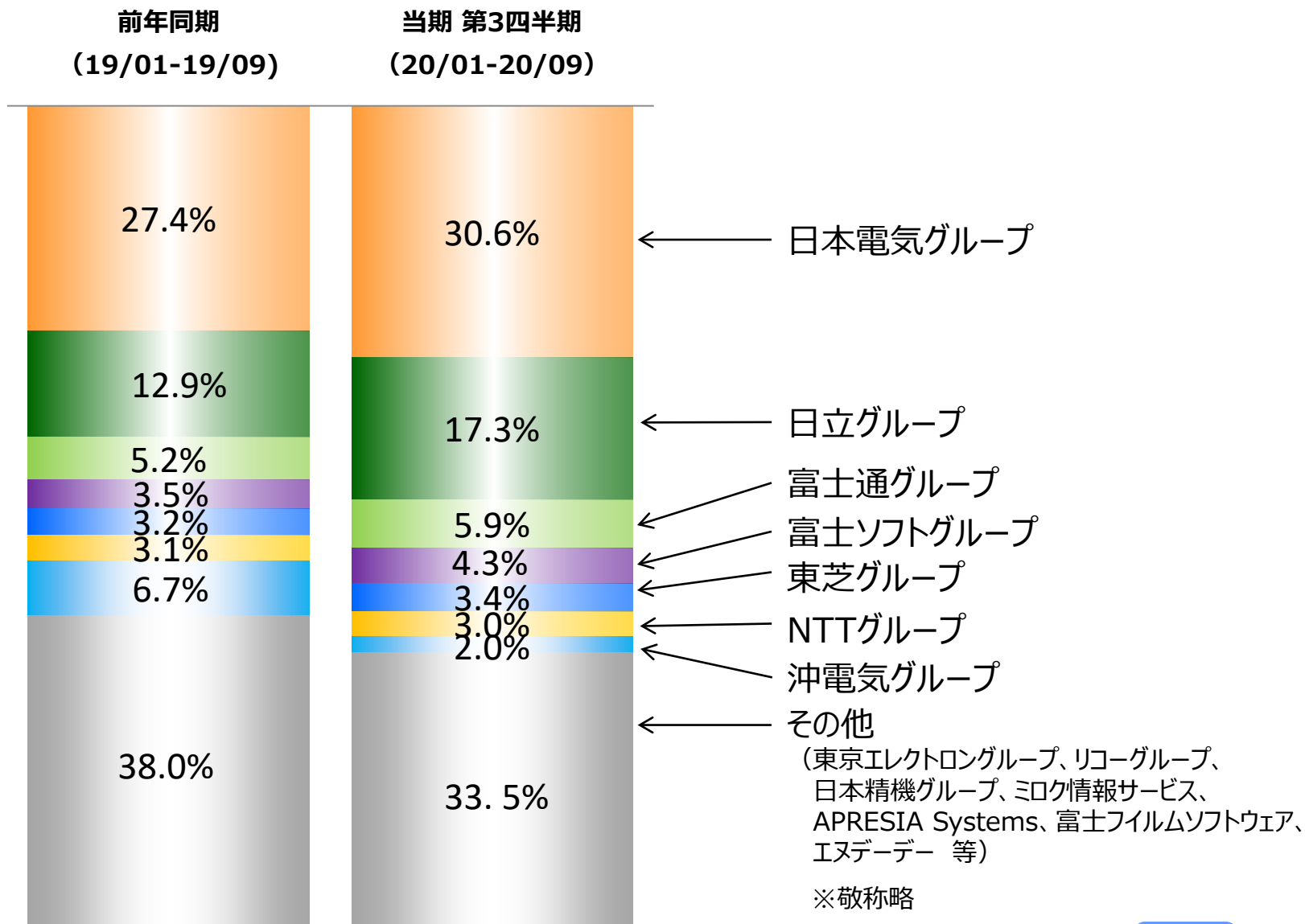
セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2019年12月期			2020年12月期			
	第3四半期 (2019年1月～9月)			第3四半期 (2020年1月～9月)			
	金額	構成比	前同比	金額	構成比	前同差	前同比
ソフトウェア開発事業	8,473	81.0%	117.3%	7,952	78.3%	▲521	93.9%
通信ソフトウェア開発	1,349	12.9%	104.5%	1,580	15.6%	231	117.2%
通信基盤	939	9.0%	97.5%	1,187	11.7%	248	126.5%
その他通信	410	3.9%	125.3%	393	3.9%	▲16	95.9%
制御ソフトウェア開発	2,522	24.1%	100.9%	2,109	20.8%	▲412	83.7%
車載	1,457	13.9%	100.6%	1,238	12.2%	▲219	85.0%
その他制御	1,065	10.2%	101.4%	871	8.6%	▲193	81.9%
業務ソフトウェア開発	4,602	44.0%	133.9%	4,262	42.0%	▲340	92.6%
金融	1,724	16.5%	178.2%	1,237	12.2%	▲486	71.8%
情報通信	543	5.2%	75.8%	680	6.7%	137	125.3%
公共	630	6.0%	163.8%	622	6.1%	▲8	98.7%
製造	267	2.6%	86.6%	526	5.2%	259	197.0%
医療	411	3.9%	151.2%	441	4.3%	29	107.3%
エネルギー	297	2.8%	83.8%	262	2.6%	▲35	88.2%
その他業務	726	6.9%	168.5%	490	4.8%	▲236	67.5%
サービス事業	1,947	18.6%	123.7%	2,161	21.3%	213	111.0%
ファシリティ事業	40	0.4%	89.4%	39	0.4%	▲1	97.2%
合計	10,462	100.0%	118.3%	10,153	100.0%	▲308	97.0%

5. 参考情報（2）顧客別売上構成比

顧客別売上構成比（前年同期比較）



5. 参考情報（3）業績予想

2020年12月期 業績予想

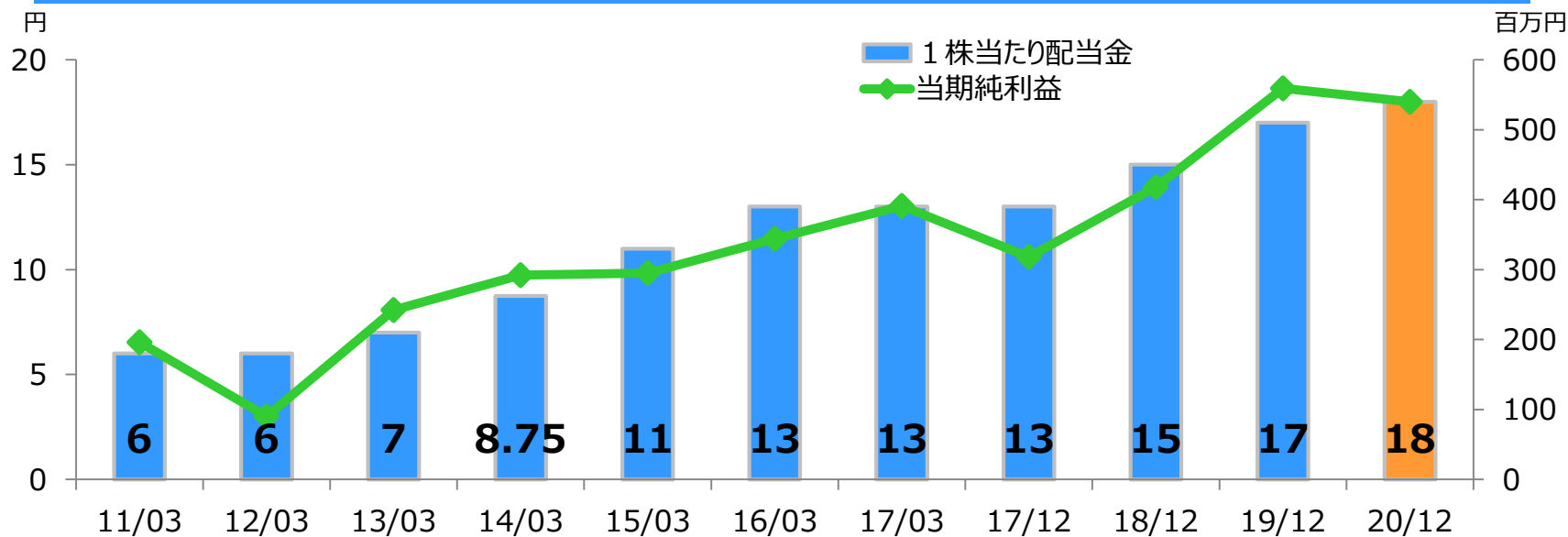
(単位：百万円)

	前期実績 (19/01-19/12)	業績予想 (20/01-20/12)	増減／増減比	
売上高	13,967	15,000	1,032	+7.4%
営業利益	746	800	53	+7.2%
営業利益率	5.3%	5.3%	—	—
経常利益	751	800	48	+6.5%
経常利益率	5.4%	5.3%	—	—
当期純利益	559	540	▲19	▲3.5%
当期純利益率	4.0%	3.6%	—	—
1株当たり 当期純利益	69.75円	67.32円	▲2.43円	—

通期の業績予想につきましては、2020年2月12日発表のとおりで変更ありません。
 当期純利益は、前期において税制優遇制度の適用をしていたため、2020年12月期は前期比3.5%減を見込んでおります。
 新型コロナウイルス感染症が終息しておらず、同感染症の影響が大きい取引先においては、今後開発の着手もしくは拡大を予定している案件が中断あるいは延伸される可能性があります。
 今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

5. 参考情報（4）配当予想

配当金（年間）：1株につき18円
（配当金総額：144百万円 配当性向26.7%）



※15/03期の配当金：普通配当 9.5円 + 東証二部上場記念配当1.5円

※16/03期の配当金：普通配当11.5円 + 東証一部指定記念配当1.5円

※17/12期の配当金は決算期変更により2017年4月から12月の9ヶ月間を対象期間としております。

当社の利益配分は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、『安定した配当』を継続して実施していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応するための事業拡大、人材育成やオフィス環境整備等の戦略的投資、さらには、新製品及び新サービス創出のための研究開発投資やM & A等に活用し、経営基盤の強化を図ってまいりたいと考えております。

上記方針に基づき、次期の利益配当につきましては1株当たり18円を予定しております。

5. 参考情報（5）会社概要

会社プロフィール

名称： サイバーコム株式会社
Cyber Com CO.,Ltd.

所在地： 本店 宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17 朝日生命仙台一番町ビル
横浜本社 神奈川県横浜市中区本町4-34

設立： 1978年12月4日

代表者： 代表取締役社長 渡辺 剛喜

資本金： 3億99百万円

社員数： 1,123名（2020年9月末現在）

事業内容： ソフトウェア開発事業、サービス事業、ファシリティ事業

2020年12月期の主なニュース

日付	内容
2020/10/22	ニュースリリース「コールセンター/CRM デモ&コンファレンス 2020 in 東京に出展」を発行
2020/07/06	東京都内における営業機会を拡充し業容拡大を図るため「東京オフィス」を開設
2020/07/01	簡単に人・モノの動きを可視化する『Cyber Position Navi』を提供開始
2020/03/06	「簡単テレワーク『楽々セキュアコネクト』大幅な価格改定のお知らせ」を公表
2020/02/27	「新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対策について」を公表（2020/05/15及び2020/06/30に対策継続を公表）
2020/01/01	組織体制を変更し管理本部、システム&ソリューション事業本部、インテグレーション&プロダクト事業本部の3本部制に再編

サイバーコムテクノロジーで社会に貢献する

Cyber Com
サイバーコム株式会社

当資料の利用に関して

当資料は、投資家の投資の参考となる情報提供を目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。また、業績予想に関する記述は、当社が当資料発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。